

report



山里体験プログラム『瑞龍寺de ヨガ体験』

山村地域へのリピーターを増やし関係人口につなげる取組



稻武支所すぐそばにある臨済宗妙心寺派瑞龍寺。県指定天然記念物で樹齢400年ともいわれるシダレザクラが有名な古刹です。開放的な本堂で、6月19日(土)「瑞龍寺de ヨガ体験」が午前7時からと10時からの2コースで開催されました。

このイベントは、いなぶ観光協会が、山里体験プログラムとして企画しています。コロナ禍にあっても、稻武の魅力あるスポットに安全安心に足を運んで、心身を癒していただくことを目的にしているそうです。

改築されたばかりの清々しい本堂を会場に、名古屋市東区にある「Jonetsu Yoga」講師の島田真帆さんの指導で、参加者は日頃気にも留めないような、霧雨が木の葉をうつ音、野鳥の囀り、自身の呼吸音に耳を傾け、ココロとカラダをのびやかに解放するヨガを体験しました。

参加者は全て豊田市外在住者。7時からのコースには前日から稻武に宿泊した方が多く参加しました。朝ヨガの後はカフェ風の庭でモーニングを楽しみ、地域の田んぼの草刈りや、養蚕技術の伝承と繭・シルク作品の製作に取り組んでいる「まゆっこクラブ」で蚕の見学をしたそうです。

7時からのコースと10時からのコースの両方に参加された鈴木さんは「ヨガは初体験。日頃パソコンで頭や視覚ばかり

疲れているが、ヨガを通して頭も身体もすっきりしてびっくりしました」と話していました。

名古屋市から参加された女性グループも「素晴らしい環境とヨガはすごく合っていて、とてもリフレッシュできた。是非毎月開催してほしい!」との感想に加え、「講座後は前から気になっていたカフェを予約してランチを予定。日帰り入浴もします」と一日を通して稻武を満喫するプランを語ってくれました。

いなぶ観光協会の村瀬事務局長によると「大変ご好評いただいたヨガ講座は今後、大井平公園や押山など、稻武の自然を肌で感じながら体験できる場所を会場に、定期的にご案内を予定している」とのこと。また、他にもどんぐり工房を拠点に【味覚体験】【自然体験・環境学習】【農林業体験】【伝統工芸クラフト創造体験】【伝統・文化体験】など四季に合わせた山里体験プログラムを企画していくそうです。詳しくはいなぶ観光協会のホームページをご確認ください。

こうした体験を通じた着地型観光を推進しているいなぶ観光協会の取り組みは、リピーターを生み「関係人口」となって山村地域の持続化にも繋がるのではないでしょうか。(松本真実)



瑞龍寺の山門



ヨガ体験の様子



はほとんどが地元の方。「思っていたより人出が多く、地域の方が楽しんでいる姿を見ることができました」と浅野さんは振り返ります。

出店者も積極的に参加

令和2年度は2021年1月まで毎月開催。月を追うごとに来場者は増えてきました。

「当初予定していた5回を終え、その後の開催についてどうするかを出店者の皆さんと話し合ったのが2月でした。続けていくべき、という声がたくさん聞かれました」。それまで旭観光協会が中心になってやってきたマジック当日の準備は、4月から出店者の方たちがほとんどやってくれるようになつたそうです。

「集金させてもらっている出店料の金額から考えて、お店の売上げが増えてきているところ

まで毎月開催。月を追うごとに来場者は増えてきました。

「当初予定していた5回を終え、その後の開催についてどうするかを出店者の皆さんと話し合ったのが2月でした。続けていくべき、という声がたくさん聞かれました」と浅野さんは振

り返ります。

出店者も積極的に参加

令和2年度は2021年1月まで毎月開催。月を追うごとに来場者は増えてきました。

「当初予定していた5回を終え、その後の開催についてどうするかを出店者の皆さんと話し合ったのが2月でした。続けていくべき、という声がたくさん聞かれました」と浅野さんは振

あつて、お店のためだけに誰か

來てくれるのだろうかと懸念していました」。矢作川沿いを走る自転車乗りの皆さんに寄つても

意や、チラシ配布、インターネットでの周知など、できることを

やつて当団を迎えたそうです。

蓋を開けてみると、来ていた

のはほんと地元の方。「思つ

ていたより人出が多く、地域の

方が楽しんでいる姿を見ること

ができます」と浅野さんは振

り返ります。

はほとんどが地元の方。「思つ

ていたより人出が多く、地域の

方が楽しんでいる姿を見ること

ができます」と浅野さんは振

り返ります。

が楽しんでいた姿を見ること

ができます」と浅野さんは振

り返ります。

が楽しんでいた姿を見ること

が楽し